

世界2の人 あの人

—第4回—

シリーズ4回目の今回は、当協会の「外国人ヘルプデスク」(現：外国人総合相談センター埼玉)の相談員を経て、現在メキシコの企業で勤務されている板屋 紀子さんです。



メキシコ在住 板屋 紀子さん

私は2008年の8月から、メキシコのケタロ州内の自動車部品製造会社にて、スペイン語通訳・翻訳の仕事をしています。

メキシコで暮らすのは今回で2度目です。昔、ハリスコ州グアダハラ市の日系企業に勤めたことがあります。最初にメキシコで働くことになったきっかけは、旅行・ホテル専門学校観光科に在学中、以前から興味があった「海外」に関わる仕事ができる旅行会社等に就職を希望していたところ、偶然にメキシコにある日系の旅行会社を見付け、自分で直接国際電話などでのやり取りをしながら、紆余曲折を経てその旅行会社の関連会社に採用されたことからです。



▲職場の同僚たちと

スペイン語は全く解からずにメキシコに渡り、ただスペイン語が好きで、独学での勉強でしたが、これには周りのメキシコの人たちにかかり助けられたと思います。忍耐強く何度も自分に教えてくれたり、間違いを直してくれたりと、皆の支えのお陰でもありました。

そして、その1度目の滞在期間に、この国にすっかり魅了されてしまいました。温かい心の人々、眩しい太陽と心地良い気候、独特の食材を使った美味しい料理、豊かな自然など、様々な面を持つメキシコという素敵な国で、またいつか暮らせたらいいな、という気持ちをずっと持ち続けていたところ、縁あってか、そのような機会が訪れ、またこの国に戻ってきました。



▲「死者の日」の街中の風景



▲カラフル骸骨砂糖菓子

職場では、現地メキシコ人スタッフと日本人の間の会話のやりとりや、会議の場での通訳をします。その合間に、様々な書類の翻訳もします。製品関係の技術文書(図面・仕様書・基準書・報告書等)や、契約書等のビジネス文書等を、社内の各部署から受け取り、難しい専門用語に出遭うこともしょっちゅうです。スペイン語はもちろん、この職場に就くまで知らなかった日本語さえも覚えている日々です。

メキシコの人たちは全体的に親切で心温かく、そして家族の絆をととても大切にします。週末には家族で賑やかに過ごすことも多く、また誕生日・結婚式・洗礼・キンセアニェラ(女子から女性への移行の意味の15歳の誕生祝い)等の人生のイベントや、お正月・クリスマス・独立記念日等の年間行事には、大家族・親戚中や友人同士も集まり、夜更けや明け方まで、皆で飲んで食べてお喋りしたり踊ったりと、とても楽しそうに過ごしています。日本のお盆に相当する11月の「死者の日」等の、盛大に祝う国ならではの習慣もあり、装飾の美しさを始め、皆が守り続けるその習慣の意義には心を動かされます。

もっとこの国を知りたく、連休を利用して時々国内旅行もしますが、様々な土地を訪れる度、その土地独特で全く異なる気候や自然、地方色豊かな郷土料理、色彩鮮やかで手の込んだ伝統手工芸品などの素晴らしさには感銘を受けるばかりです。壮大な遺跡を始め、マヤ・アステカ・サポテコ等の文明による古代史についても学ばされることも多いです。地方の村々で先住民の人々と接することの出来た新鮮な機会もありました。

何処へ行っても新鮮な驚きと感動を与えてくれるこのメキシコという国での、自分にとって未知の世界を、滞在中に出来るだけ体験し、学べることを願っています。



▲チアパス州パレンケ遺跡



▲メキシコ州シウダデラ市場の伝統工芸刺繍



▲チアパス州の先住民のお宅にて



▲メキシコで食されているウチワサポテンの実「Tunaトゥナ」の収穫体験